

# 講師資格認定オーディション 筆記試験対策

## ピアノ科／オルガン科 各R5～R2

### ポピュラー・ジャズピアノ科 Basic-I

2013年春に実施したピアノ科・オルガン科講師資格認定オーディションの筆記課題として出題した問題について、いくつかをピックアップして解説いたします。また、ポピュラー・ジャズピアノ科については、2013年春に実施したBasic-I講師資格認定オーディションの筆記課題「理論」で出題した全問題と解答例を、解説とともに紹介いたします。出題傾向のポイントを押さえ、次回の受験の準備にお役立てください。

## ピアノ科【R5】

R5では、音楽の一般知識を問う問題、楽典の基礎的な問題に加えて、指導法やローランド・ミュージック・スクールの音楽教育システムなどについての問題が出題されます。ここでは、楽語に関する問題、音階に関する問題を例に取り上げます。

◎次の楽語の意味を①～④より選び、番号で答えてください。

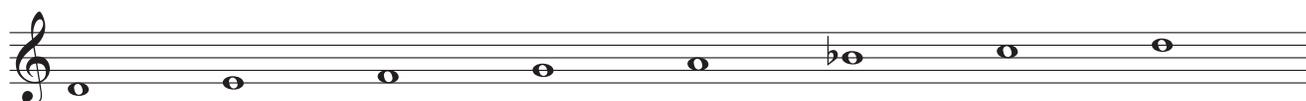
設問 15. 「con fuoco」

- ①悲しそうに ②熱烈に ③繊細に ④荘重に

正解：②熱烈に

「con fuoco」は「火のように」「熱烈に」という意味で、類似の意味の楽語に、feroce（野性的に激しく）があります。ここで出題される楽語は、実技の課題曲や一般的な有名楽曲に多く使われているものであり、テキストの巻末や、楽典の教科書に「曲想・奏法に関する用語」としてリストアップされているものがほとんどです。楽譜内で知らない用語を見つけた際は、そのままにせず必ず調べる習慣を付けておくことが大切です。

◎この楽譜は、二短調の自然短音階です。問いに答えてください。



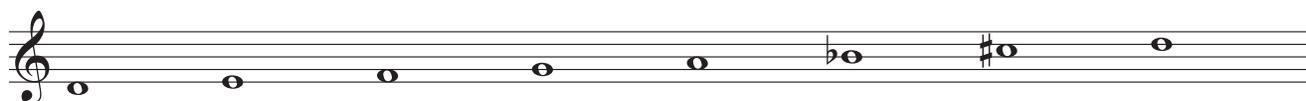
設問 24. 和声的短音階にするにはどうしたらよいですか。

- ①上行の際は、B $\flat$ 音をB $\sharp$ 音にし、C音に $\sharp$ を付け、下行の際は、C音を $\flat$ 、B音は $\flat$ にする。  
 ②上行の際は、C音に $\sharp$ を付け、下行の際は、C音を $\sharp$ にする。  
 ③上行、下行ともに、C音に $\sharp$ を付ける。  
 ④上行、下行ともに、B $\flat$ 音をB $\sharp$ 音にし、C音に $\sharp$ を付ける。

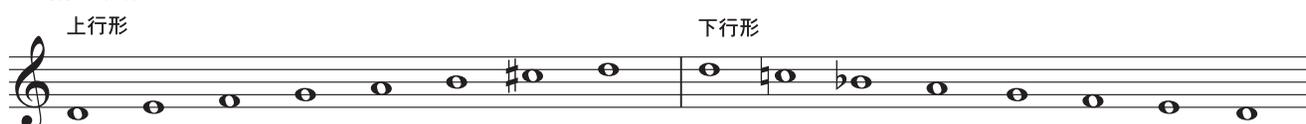
正解：③上行、下行ともに、C音に $\sharp$ を付ける。

「自然短音階」、「和声短音階」、「旋律短音階」の3種類の短音階は基本的な事項です。二短調の和声短音階、旋律短音階は、(調号を用いずに記すと) 以下のようになります。

<和声短音階>



<旋律短音階>



譜例からわかるように、和声短音階とは、「導音」を含ませるため、第七音(C $\sharp$ 音)を主音から長7度(すなわち、オクターブ上の主音から短2度下)としたもので、その結果、第六音と第七音との音程が増2度となるのが特徴です。このような短音階の各種類の特徴はしっかりと覚えておきましょう。



## ■■■■■ ピアノ科【R2】 ■■■■■

R2では、聴音課題、筆記課題ともにほとんどが記述形式の問題となります。また、オーケストラ曲など、さまざまなジャンルの音楽の楽器編成、様式などがさらに広範囲から出題されます。

以下のオーケストラ曲の楽譜を見て、次の問いに答えてください。

◎この曲で使われる楽器は楽譜の左端に書かれていますが、空欄が4つあります。〔23〕～〔26〕に当てはまる楽器名を選択肢より選び、番号で答えてください。

Allegretto (♩=76)

(23) Flute (ff, ten.)

(24) Oboe (ff, ten.)

Clarinet 1,2 in A (ff, ten.)

Bassoon 1,2 (ff, ten.)

Horn 1,2 in E (ff, ten.)

Trumpet 1,2 in D (ff, ten.)

(25) Trompani (ff)

Allegretto (♩=76)

Violin I (ff)

Violin II (ff)

Viola (ff)

Violoncello I (ff)

Violoncello II (ff)

(26) Contrabass (ff)

- 【選択肢】 ①ヴィオラ ②クラリネット ③オーボエ ④コントラバス ⑤チェロ ⑥トランペット  
⑦ティンパニ ⑧フルート ⑨テューバ ⑩トロンボーン ⑪チェレスタ ⑫ファゴット

正解：(23) ⑧フルート (24) ③オーボエ (25) ⑦ティンパニ (26) ④コントラバス

オーケストラ譜の書式に関する問題です。ここでの譜例は、ベートーヴェンの交響曲第7番の第2楽章です。一般的なオーケストラのスコアでは、上から木管、金管、打楽器、弦楽器の順に記され、また、この楽譜の最上段(⑧フルート)からバスーンまで、ホルンとトランペット…といったように、管、金管、打、弦楽器それぞれの楽器群を左端のカッコで括って記譜される慣習があります。〔25〕はカッコに入っていないので、木管、金管、弦のいずれでもなく打楽器であり、また低音部記号で書かれていること、A音とE音の2つの音しか使われていないことからみても、⑦ティンパニが最も適切と考えられます。このように、記譜上の習慣および楽器の特性を知ることがポイントです。

## ◆◆◆◆ オルガン科【R5】 ◆◆◆◆

R5では、音楽の一般知識を問う問題や楽典の基礎的な問題に加え、ミュージック・アトリエの機能や、基本的なコードネームに関する問題などが選択問題として出題されます。

◎次の文章が正しければ○、間違っていれば×で答えてください。

設問24. ミュージック・アトリエのダンパー・ペダルの効果は、ソロ・ボイスに対してもかけることができる。

正解：×

ダンパー・ペダルの効果は、初期設定ではローワー鍵盤で弾いた音に対してかかるようになっています。アッパー鍵盤に対して効果をかけるように設定することも可能ですが、その場合もソロ・ボイスには効果がかかりません。ちなみに、ソロ・パートは伴奏で用いることはほとんどなく、通常は一音しか鳴りません（ソロ・モードを「Polyphonic」に設定にした場合を除く）。

◎次の楽譜の□部分に最適と思われるコードを選択肢より選び、番号で答えてください（重複不可）。

Bluesy  (31)



【選択肢】

- ①B7 ②C7 ③E7 ④B $\flat$ 7  
⑤D7 ⑥Gm7 ⑦Am ⑧Bdim

正解：

- (31) ④B $\flat$ 7 (32) ⑧Bdim  
(33) ⑤D7 (34) ⑥Gm7  
(35) ②C7

ブルースのコード進行は定型なものであり、基本的にはその定型を当てはめていけばよいのですが、ブルース進行の中でもいくつかのバリエーションが存在する(33)～(35)の箇所について見ていきましょう。

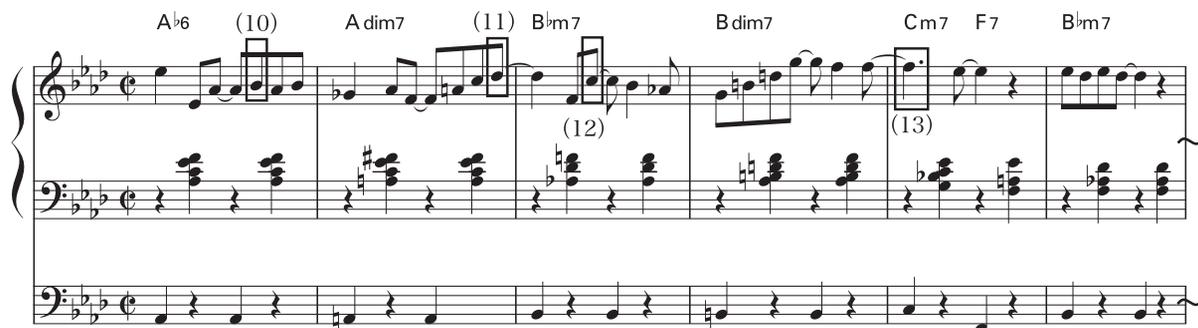
まず(35)は、ドミナント・コードである②C7が適切です。そこから逆算的に、(34)にはドミナントに進行しやすいコードとして、「ツーファイブ」(II m7-V7-I)のパターンを形成する⑥Gm7が最も合致します（ほかにダブル・ドミナント〈G7〉、またその代理コード〈D $\flat$ 7〉というバリエーションもあり得ますが、ここではメロディーとの関係においても、選択肢にないことから考慮から外れます）。次に(33)は、(34)のGm7からさらに逆算し、これに進行するセカンダリー・ドミナント（Gmから見たドミナント）となる⑤のD7が、メロディーとの関係からも最適と考えられるでしょう。

## ◆◆◆◆ オルガン科【R4】 ◆◆◆◆

R4では、より専門的な知識を問う内容となります。ここでは、非和声音の種類を答える問題について解説します。

次の楽譜を見て、問いに答えてください。

◎曲中の(10)～(13)に囲まれた音の種類を①～⑤より選び、番号で答えてください。



設問10. ①経過音 ②補助音(刺しゅう音) ③先取音 ④倚音 ⑤掛留音

設問11. ①経過音 ②補助音(刺しゅう音) ③先取音 ④倚音 ⑤掛留音

設問12. ①経過音 ②補助音(刺しゅう音) ③先取音 ④倚音 ⑤掛留音

設問13. ①経過音 ②補助音(刺しゅう音) ③先取音 ④倚音 ⑤掛留音

正解：設問10. ②補助音(刺しゅう音) 設問11. ③先取音 設問12. ④倚音 設問13. ⑤掛留音

比較的正答率の低かった、設問12、13について見ていきましょう。設問12は、まずC音が前の音から跳躍進行している非和声音であることに注目します。跳躍進行という点で、①経過音、②補助音(刺しゅう音)は選択肢から外れます。残りは③先取音、④倚音、⑤掛留音になりますが、ここはコードが変わるタイミングではないため、③先取音、⑤掛留音も選択肢から外れます。次の音へ2度下行して解決することからも、正解は④倚音となります。次に設問13ですが、このF音は前小節のF音とタイでつながっており、コードの変わり目となっています。また、次に2度下行して和声音へ解決していることから、⑤掛留音が正解です。このように、前の和音中の音が後続の和音まで伸びて、それがその後続和音の構成音と一致せず不協和状態となっているものを掛留音といいます。

## ◆◆◆◆ オルガン科【R3】 ◆◆◆◆

聴音課題、筆記課題ともに記述形式の問題が加わり、より実践的な内容が出題されます。ここでは、ミュージック・アトリエの機能に関する問題、およびコードネームに関する問題について解説します。

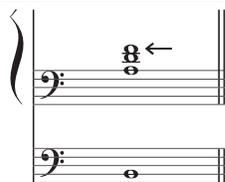
◎オルガンについて、次の文章が正しければ○、間違っていれば×で答えてください。

設問23. ミュージック・アトリエでは、イニシャル・タッチ機能により、鍵盤を押した後にさらに強く押し込むことで、ビブラート効果などを加えることができる。

正解：×

弾いた鍵盤をさらに押し込むことで、音色にビブラートをかける機能が「アフター・タッチ」機能です。「イニシャル・タッチ」は、鍵盤を強く強さによる音量や音質の変化の幅を調節するための機能で、値を大きくするほど打鍵の強弱による音量や音質の差が大きく付くようになります。このような機能については、ミュージック・アトリエの「取扱説明書」に掲載されています。取扱説明書はローランド・ホームページからダウンロードすることが可能ですので、さまざまな機能についてよく調べておきましょう。また、日頃の練習や演奏を通してミュージック・アトリエの使いこなしを身に付けることが、さまざまな機能を知ることもつながります。

◎次のコードの中で、← で示された音がコードのどの構成音になっているかを、それぞれ①～④より選び、番号で答えてください。



①3th ②5th ③11th ④♭5th

正解：④♭5th

まずは、この和音のコードネームを考えてみましょう。構成音を並べ替えるとBm7(♭5)であることがわかります。このF音は、ルートのB音から見て減5度上の構成音であり、正解は④♭5thとなります。

## ◆◆◆◆ オルガン科【R2】 ◆◆◆◆

ピアノ科R2と同様に、オーケストラ譜の読み取りが新たに加わり、また、記述形式の問題が全体のおよそ半分近くを占めるようになります。ここでは、聴音とコードネームに関する問題について解説します。

◎これから、音楽を5曲流します。当てはまる言葉をそれぞれ①～④より1つずつ選び、番号で答えてください。

設問5. ①ビ・バップ ②ディキシーランド・ジャズ ③スウィング・ジャズ ④フリー・ジャズ

正解：①ビ・バップ

ジャズにはほかのジャンルと同様にさまざまな種類があります。会場で流れた音楽は①ビ・バップでした。ビ・バップは、各奏者の自由なアドリブを中心としたスタイルで、複雑なテクニックやテンションの多用が特徴です。会場では曲の一部(トランペットがアドリブを奏している部分)が流れました。演奏が聴けるのはほんの短い時間ですが、その曲のスタイルの特徴が演奏のどこかに現われているはずです。注意深く耳を傾けて聴くようにしてみましょう。ちなみに、②ディキシーランド・ジャズ、③スウィング・ジャズは、アンサンブルを主体とし、ビバップと比べてアドリブはさほど重要視しないのが普通です。④フリー・ジャズは、一般にコード感やビートが希薄で、前衛的、実験的な、特殊なスタイルのジャズです。

◎次の楽譜を見て、問いに答えてください。

Moderato

Faug (24) C<sup>onB</sup> (25) D<sub>7</sub><sup>(♭9)</sup> (31)

Gm<sub>7</sub> E<sub>7</sub><sup>(9)</sup> (26) G<sub>7</sub><sup>(13)</sup> (27) (28)

(24)～(28)の空欄に、適切なコードネームを書き入れてください。テンションノートも表記すること。

正解 (24)B♭maj7  
 (25)Am7  
 (26)Dm7(9)  
 (27)C7(#9, ♭13)  
 (28)G♭7(9)

正答率の低かった(27)について解説します。まず、ベースのC音をコードのルートと仮定すると、減5度のトライトーンの関係となる3rd、7th(E音、B♭音)が含まれ、また直前のコードがG7であることから、C7であると判断できます。次にテンションノートを確認してみましょう。この和音から上記のC7の構成音を除いたE♭音、A♭音がテンションとなります。よって、正解はC7(#9, ♭13)です。コードの判別では、基本となるコードの構成音を見極めたうえで、テンションノートの判別とその度数を判断することが必須となります。